

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立大宮高等学校		Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	「高い志と強い使命感を持ったトップリーダーを育成する」という部分に、学校として目指す方向が明確に示されている。生徒・保護者などの期待に十分応え、生徒の実態や学校の現状に応じた適切な学校像である。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	今年度新たに「創造性を備えた人材を育成する」という文言を加えて見直しを図るなど、目指す学校像を踏まえ、中期的な視点から重点目標が設定されている。目指す学校像の実現に向けて重点化された適切なものとなっており、骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業等の活用など、日々の教育活動の指針となる目標となっている。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	重点目標の達成に向けて必要な評価項目が挙げられている。学校全体の目標を踏まえ、分掌・学年等で検討される方策等を学校全体のシートへフィードバックして相互の連携を図るなど、学校自己評価の運営体制について工夫ができると更に良い。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	方策や評価指標を設定するに当たり、評価運営委員会や職員会議などで教職員間の共通理解が図られている。今年度新規に作成した「分掌等の連鎖シート」等をうまく活用して組織間のキャッチボールをよく行い、分掌等と学校全体の目標をより一層連鎖させて更に組織的に課題の解決に取り組めるようにすることが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の現状を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、重点目標や評価項目などについて共通理解を図っている。校長は的確なリーダーシップを発揮し、学力の向上や勉強と部活動等の両立などの課題に対して、生徒・教職員・保護者が一体となった「チーム大宮」として取り組むなど、課題解決の方向を示している。目標の達成に向けて更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	年度評価や学校関係者評価などを基に、取り組むべき課題や改善策が明確に示されている。アクティブ・ラーニングを活用した授業改善など、次年度の目標・方策等に具体的かつ適切に引き継がれており、課題の解決に向けてPDCAのスパイラルアップに取り組んでいる。	
特記事項			